

# 「低放射」と「外貼り」追加 JIS改正で需要の高まりに期待

日本ウインドウ・フィルム工業会（WF工業会）はJIS規格を改正し、日射調整フィルムと低放射（断熱）フィルムを区別し、外貼りフィルムの規格を追加するよう申請している。改正のめどは今年の終わりが。各社はJIS改正に合わせて、断熱・外貼りの新製品を開発し、ラインアップを拡充している。断熱フィルムには、冬、寒冷地、北面の窓といった新しい需要がある。外貼りフィルムも区分に追加されることで、これまで以上に需要が高まることが期待されている。

WF工業会はJIS改正に関わる専門委員会を立ち上げ、経済産業省に対して現行の建築窓ガラス用フィルムのJIS規格（JISA5759）の改正を要請している。改正のめどは今年の終わりが。改正内容は「低放射（断熱）」と「外貼り」の追加。「断熱」も「遮熱」も「日射調整」でひとくくりだった区分に「低放射」を追加し、「日射調整」の基準を見直して「日射調整」「遮熱」にする。フィルムの性能を明確にすることで、用途に応じて「遮熱」「断熱」「遮熱・断熱」フィルムを選択しやすくなる。

これまでは業界として1本筋が通った基準がなかったたに、各社の基準でそれぞれ「断熱フィルム」をうたって販売していた。これからは、統一された基準で選別されることになる。これまでにない新しいカテゴリが追加されたことに対して、日東電工（大阪市北区）の種ヶ嶋貞利多軸創出統括部MF事業推進部営業課長は「これが低放射フィルム」と明確で厳格な基準を設定する上で、日本ウインドウ・フィルム工業会の担う役割は大きい」と指摘する。

## 16年度中に出そうか

JIS改正に呼応する形で各社は透明断熱フィルムの開発に注力（表）。16年度中には各社の製品が出そうとみられる。日東電工は昨年末に遮熱・断熱フィルム「ペンジェレックス」シリーズに「PX7570N」を追加。フィ

表 メーカー各社の主な透明断熱フィルムの光学特性

メーカー	名称	可視光線		熱貫流率 (W/m <sup>2</sup> ·K)	遮蔽 係数	日射			紫外線 透過率 (%)
		透過率 (%)	反射率 (%)			透過率 (%)	反射率 (%)	吸収率 (%)	
スリーエムジャパン	LE65CLAR	64	24	4.7	0.56	44	35	21	<1
リンテック 帝人フロンティア	ZC05G NX	65	21	4.1	0.57	45	33	22	<1
	ZC06T NX	75	12	4.2	0.69	60	22	18	<1
サイバーレップス	TS7080-LE	72	19	4.2	0.68	55	26	20	<1
日東電工	PX-7060S	70	11	3.6	0.56	45	29	26	<1
	PX-7570N	72	15(室外側) 8(室内側)	3.7	0.63	52	25	23	<1
	PX-8080S	78	6	3.8	0.68	56	19	25	<1
住友理工	TW32	73	15	4.5	0.66	54	25	21	<1

ルムの光学性能的には現行品の「PX7060S」と「PX7080S」の中間に位置する。大きな特長は、コスト対応力に優れていること。Low-E膜を使ったフィルム特有の傾向として、室内光の反射色が赤やピンクに見えるが、「PX7570N」はこの問題を解消。反射率を抑えた上で、室内光の色をそのまま反射し、自然な色